

(仮称)滋賀県立高等専門学校の設置場所について

総合企画部高専設置準備室

選定経過

令和4年3月30日	第1回設置場所選考懇話会
4月21日	第2回設置場所選考懇話会
5月18日	用地選定基準公表
5月25日	第3回設置場所選考懇話会
6月 8日	最適県有地公表、市町提案募集開始
7月 8日	市町提案募集締め切り
8月 3日	第4回設置場所選考懇話会
8月22日	第5回設置場所選考懇話会
9月20日	設置場所公表

用地選定の考え方

目指す学校像：

すべての人と地球を支え続ける技術を磨く学校



学びの方向性：

- 「情報技術」をベースに、課題を発見し、価値を生み出す力を養成
- キャリアを考えた育成コースで、多様かつ柔軟な選択肢を提供
- 人と自然に寄り添い、課題の解決に挑む技術者を育成

学びの専門分野：



●令和らしく、滋賀らしいカリキュラム

- ・情報技術(数理・DS・AI科目、IoT基礎技術習得)
- ・社会実装(地域課題を見出し、技術実装に挑戦)
- ・価値創造(価値観を知り、社会への提案力を習得)

●技術者交流・育成のハブ機能

- ・学校教育の場
- ・学生と企業の技術者の交流の場
- ・小中学生が技術への憧れを育む場

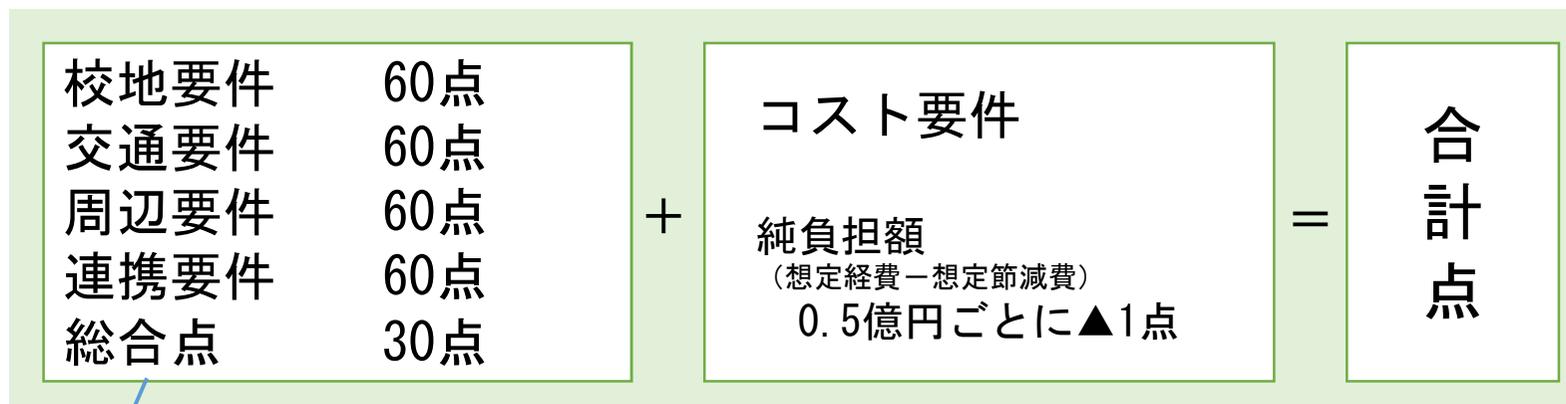
●用地選定基準の基本的な考え方

- ①安全で豊かな教育環境(実験・実習をはじめとする多様な学びや学生生活の実現、将来の拡張性)
- ②県内全域・県外からの良好なアクセス
- ③県内大学や企業等との連携・交流

用地選定基準

最低要件

- ①20,000 m²以上の土地であること
- ②用地取得済であること(または速やかな用地利用が確実であること)
- ③法令上、高専の設置が可能な土地であること
- ④災害危険区域など、「災害レッドゾーン・イエローゾーン」に該当しないこと。

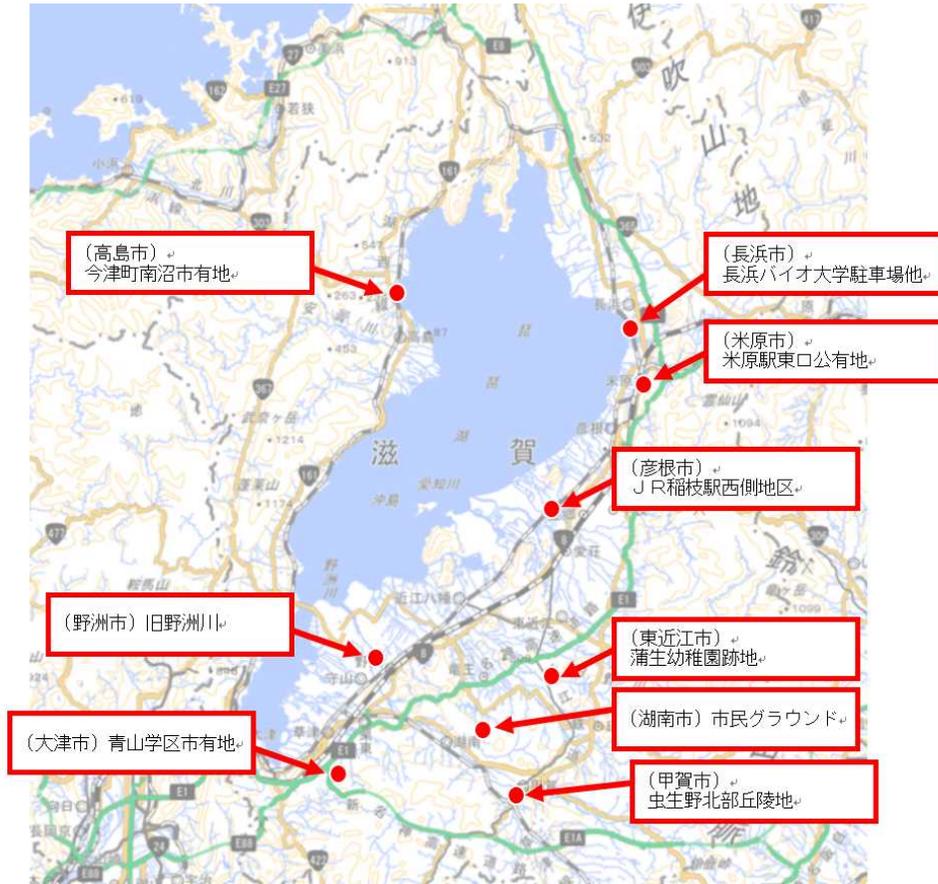


総合点

バランス点(10点) 提案地の平均合計点との比較、各要件のバランスを評価
合計点が平均以上かつ平均以下の要件なし: 10点
合計点が平均以上かつ平均以下の要件あり: 5点
合計点が平均以下: 0点

個別評価点(20点) 独自性(当該提案地ならではの教育)や将来性等の視点から評価

市町提案地の概要および審査結果



名 称	面 積
大津市 青山学区市有地	23,470㎡
彦根市 JR稲枝駅西側地区	40,450㎡
長浜市 長浜バイオ大学駐車場	20,400㎡
甲賀市 虫生野北部丘陵地	30,000㎡
野洲市 旧野洲川	149,678㎡
湖南市 市民グラウンド	50,000㎡
高島市 今津町南沼市有地	35,516㎡
東近江市 蒲生幼稚園跡地	27,558㎡
米原市 米原駅東口公有地	22,000㎡

※米原市の提案は民有地30,000㎡を加えたものであったが、土地間の移動が困難で一体的利用ができないと判断し、22,000㎡のみを評価の対象とした。

	要件 (配点)	校地 (60)	交通 (60)	周辺 (60)	連携 (60)	総合 (30)	コスト	合計 (270±α)
野洲市旧野洲川		59	50	53	33	30	6	231
(次点)彦根市JR稲枝駅西側地区		58	42	56	42	21	4	223

野洲市提案地の概要

●JR野洲駅から1.3KM
(徒歩約17分)



地理院地図より作成

JR野洲駅

国有地

※今回市より追加提案があった場所

県有地

※最適県有地として選定した場所



画像 ©2022 CNES / Airbus、Maxar Technologies、Planet.com、地図データ ©2022
200 m

野洲市提案地の特徴①

- 自然に囲まれた広大な校地と企業集積を活かした多様な教育・学生生活・実証フィールド。(企業や国土交通省等との連携、将来性)
 - 市が国有地に河川防災ステーションとしてグラウンド等を整備。平常時は高専校地として使用可能。(→コストの低減)
- 特徴的な教育環境(全国・世界を視野に入れた教育)を低コストで整備。**

整備イメージ(野洲市提案資料より) コメントは県が追記



※あくまでもイメージであり、実際の整備内容や施設配置を示すものではありません

野洲市提案地の特徴②

- 県内全域からの良好なアクセス
- 県外からの良好なアクセス

→ 通学可能な高専という新たな選択肢、技術者交流の拠点



懇話会での議論（抜粋）

- 用地が広いことは様々な教育への活用が考えられ、将来の可能性も広がる。
- 県外学生の確保を視野に入れた場合、国立高専との位置関係も重要な視点。
- いずれも熱意あふれる素晴らしい提案。この熱を冷ますことなく、立地市以外の地域との連携や、理工系人材の裾野拡大を進めることが重要。

<野洲市の提案について>

- ・優れた交通アクセスに広大な土地という、全国の高専と比較しても恵まれた条件の提案である。
- ・電子デバイスの事業所が集積し、研究開発拠点も近くにある。こうした場所で最先端の学びができるのは良いことである。
- ・採点基準上、大学との連携の点数は低く出ているが、30分圏内に位置する大学は多い。

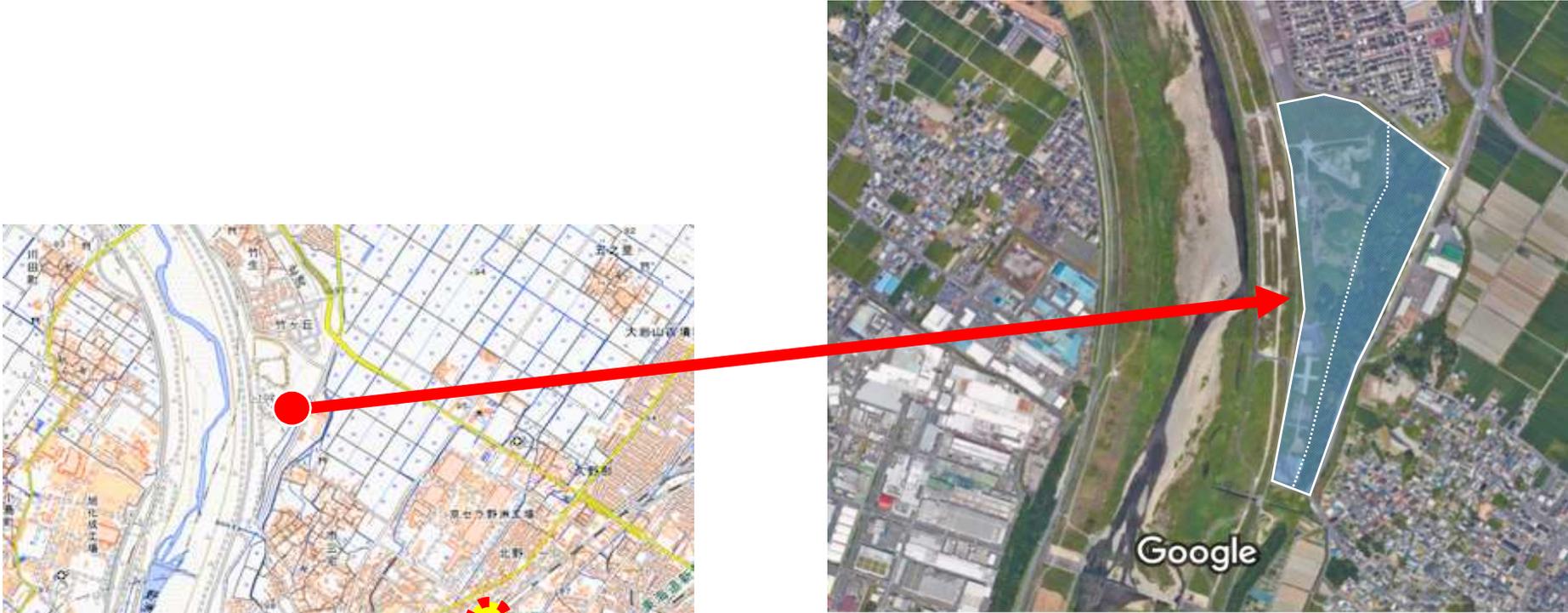
【参考】

(仮称)滋賀県立高等専門学校設置場所選考懇話会

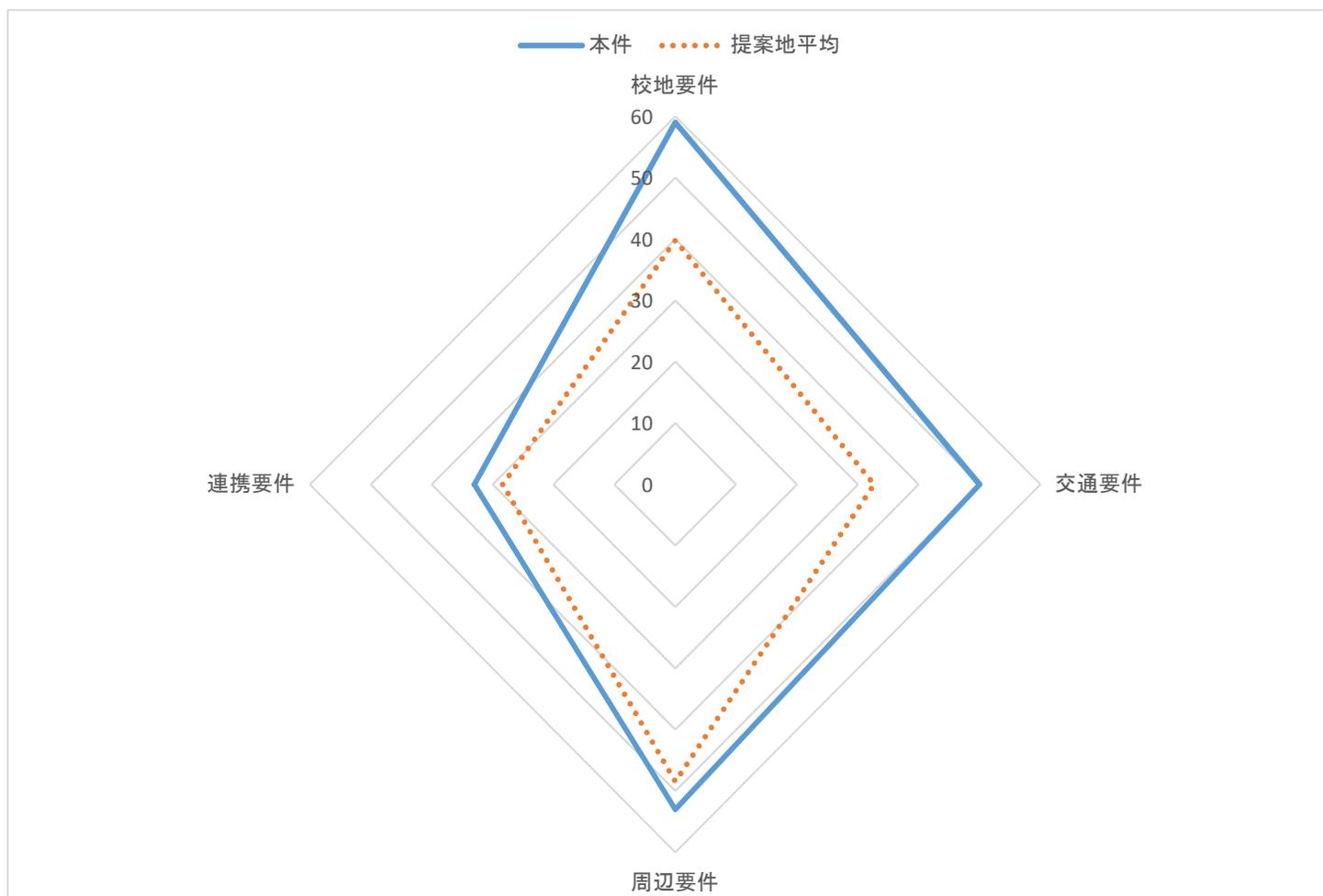
委員名簿：（敬称略、五十音順）

	分野	氏名	所属
	学校教育	安部 法子	滋賀県立守山養護学校 校長
	学校教育	一ノ宮 賢了	米原市立米原中学校 校長
	経済界	後藤 充啓	株式会社ゴーシュー 代表取締役会長
	経済界	小林 徹	オプテックスグループ株式会社 取締役相談役
	地域連携	船越 英之	公益財団法人滋賀県産業支援プラザ 創業支援課長
	学校経営	道平 雅一	神戸市立工業高等専門学校 校長補佐
	学校経営	八尾 健(座長)	京都大学名誉教授、元香川高専 校長 県「令和の時代の滋賀の高専」設置に向けた懇話会 座長
	経済界	湯本 聡	田中シビルテック株式会社 代表取締役社長

【個票】 野洲市旧野洲川

<p>所在地 所在図 土地形状</p>	<p>野洲市市三宅</p>  <p>地理院地図より作成</p> <p>画像 ©2022 CNES / Airbus、Maxar Technologies、Planet.com、地図データ ©2022 200 m</p>
<p>交通条件</p>	<p>JR琵琶湖線 野洲駅 1.3km 自転車6分 徒歩17分</p>
<p>土地面積</p>	<p>149,678.00 m²</p>
<p>法令条件等</p>	<p>県有地+国有地 (国有地に整備する防災公園について、無償使用) 現状: 林(県有地) 河川側帯(国有地) 市街化調整区域 農地でない 埋蔵文化財包蔵地でない</p>
<p>危険度</p>	<p>浸水可能性(10年確率) 0.5m未満 液状化可能性(PL値) PL値5~15未満 周辺の活断層の存在 なし</p>
<p>その他</p>	<p>国有地には、市が防災公園を整備(グラウンド等)。平常時は高専で使用可</p>

【個票】 野洲市旧野洲川



区分	本件	提案地平均	順位
校地要件	59	39.8	1
交通要件	50	32.7	1
周辺要件	53	48.4	3
連携要件	33	28.3	5
総合点	30	12.4	1
小計	225	161.7	1
コスト要件	6	3.1	3
合計点	231	164.8	1

【個票】 野洲市旧野洲川

項		目	配点	内容	評価	点数	
必須要件		① 最低限の校地面積	必須		○		
		② 用地取得の確実性	必須		○		
		③ 法令上、高専の設置が可能	必須		○		
		④ 危険区域の有無	必須		○		
校地要件	安全性	1-1-1	浸水可能性	3	0.5m未満	◎	3
		1-1-2	液状化可能性	3	PL値5~15未満	○	2
		1-1-3	活断層の有無	6	なし	◎	6
	建築・設計の柔軟性	1-2-1	校地面積	30	50,000㎡以上	◎	30
		1-2-2	景観条例や建蔽率等の制限	3	なし	◎	3
		1-2-3	土地の形状	15	造成により整形・平坦・2方向	◎	15
			小 計	60			59
交通要件	通学の容易性	2-1-1	公共交通の利便性	9	8.7本/h	◎	9
		2-1-2	県内からのアクセス（後背人口）	30	43,896	○	20
		2-1-3	県外からのアクセス	15	56,477	◎	15
		2-1-4	通学経路の安全性等	6	危険箇所なし	◎	6
			小 計	60			50

周辺要件	教育上のふさわしさ	3-1-1	騒音・振動・臭気等の有無	9	なし	◎	9
		3-1-2	教育上ふさわしくない施設の立地	9	なし	◎	9
		3-1-3	学生の便利施設の立地	6	コンビニ◎、医院◎	○	4
	地域をフィールドとする多様な学び	3-2-1	特徴的な活動フィールド①	6	創業支援、ビジネスプランコンペ等	○	4
		3-2-2	特徴的な活動フィールド②	6	神輿	○	4
		3-2-3	特徴的な活動フィールド③	3	三上ずいき祭り、本藍染	○	2
	周辺の理解	3-3-1	地元自治体・経済界等による支援	15	自治体、経済界、地域からの強力かつ具体的な支援	◎	15
3-3-2		住宅密集地までの距離	6	近接していない	◎	6	
			小計	60			53
連携要件	教育機関、企業等との連携	4-1-1	高専の学びの方向性と親和性の高い大学との連携による学びの相乗効果	15	30分以内（滋賀大学（大津）、滋賀医科大学、龍谷大学、立命館大学、成安造形大学、びわこ学院大学）	△	5
		4-1-2	同年代の学生・生徒との交流	9	野洲高校（学生・生徒数419人）	△	3
		4-1-3	研究機関等の集積による拠点の形成	15	15分以内（総合病院研究所、ポリテクカレッジ滋賀（近江八幡）） 30分以内（工業技術総合センター、琵琶湖博物館、衛生科学センター、農業技術振興センター、テクノカレッジ草津）	○	10
		4-1-4	工業系企業の集積度	9	30, 304, 510	◎	9
		4-1-5	法人本部との連携	6	車40分	×	0
		4-1-6	その他特色ある主体との連携	6	国土交通省	◎	6
				小計	60		
総合点		当該立地を活かした魅力ある学校づくり	30	<p>（バランス10 個別評価20）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各要件において全提案地の平均を上回る。 県有地に加え、国・市との連携により、広大な校地を低コストで確保可能である。また、周辺に製造業の事業所が集積し、それらの企業の教育面の協力による先端的な学びや、周囲の自然環境や国との連携を活かした建設分野の実践的な学びなど、現在検討中の学びの方向性に合致し、多様な教育・実証フィールドを整備可能な優れた提案である。 交通アクセスに最も優れ、県内各地の幅広い範囲からの通学が可能であることに加え、全国の高専の空白地帯を埋める位置に立地することから、県外からの通学も期待できる。 こうした企業、国、大学等との連携や交通アクセスの良さ等を活かし、技術者交流のハブとなる機能を整備することができる。 十分な広さの用地に加え、土地に起因する制約条件も少ないことから、将来の拡張性についても優れている。 			30
			計				225
			コスト要件		造成、伐採（▲4） 施設整備不要分（グラウンド）（+10）		6
			合計		（小計－コスト要件）		231

【個票】 野洲市旧野洲川